

# 巻頭言

## 「全難聴の福祉大会」

理事長 新谷 友良

私たち協会の上部団体である全日本難聴者・中途失聴者団体連合会（全難聴）は毎年1回、「全国中途失聴者・難聴者福祉大会」を開催しています。今年は、11月26－28日に奈良県で第22回大会が開催されます。そして、第23回福祉大会は来年11月4－6日、東京での開催が決まりました。

前回東京で開催されたのは今から12年前、平成16年のことです。場所は市ヶ谷のアルカディア市ヶ谷と日本大学会館で、10月の8日から10日までの3日間、参加者1千名を超える開催でした。「オープンカレッジ」の企画では「中途失聴・難聴者の手話について」や「障害学入門」、「濱田ゼミ（補聴器についてやさしく学ぼう）」など22の分科会が準備されました。その中には、亡くなられた高村真理子さんと大橋弘枝さんのデュオグループ「ソウルレインボー」のダンス企画も含まれていました。また、機器展「聞こえの商店街」には150を超える企業・団体の参加があり、3日間に亘って会場を訪れた方は3千名以上だったと記憶しています。

わたしは、その当時協会に入って日も浅く、また全難聴の国際部員になったばかりでしたが、「オープンカレッジ」の担当を仰せつかり、右も左もわからず、駆け回っていました。22も分科会がありましたので、大会実行委員会とは別に「オープンカレッジ」だけの担当者会議を開催するのですが、分科会の概要のとりまとめ、機材や情報保障の準備などやることは山ほどありました。特に鮮明に記憶に残っているのは、各分科会のレイアウトづくりで、必要な机・椅子の数、並べ方など参加申し込み者の数にあわせてエクセルで作ったレイアウト図を毎日のように変更していました。不出来なレイアウト図を作って、アルカディア市ヶ谷の担当者と打ち合わせすると、「このレイアウトでは、非常時の避難経路が作れません。ダメです!」とにべもなくいわれて、随分凹んだ記憶があります。

その後全難聴の福祉大会は形がある程度決まってきて、各地域の加盟協会の回り持ちの主管となり、ここ数年分科会の数も五つ程度に抑えられています。それでも、1日目の分科会以外に夜の交流会の企画や2日目の全体会・式典・記念講演・アトラクション、それから2日目夜・3日目の都内観光企画と盛りだくさんのプログラムになります。多くの皆様の大会への参加と準備へのご協力をお願いします。